

飼料イネロールベールのネズミ害は「広々配置」で軽減できる

研究のねらい

飼料イネロールベールサイレージは、貯蔵中にロールベール内の粉を狙うネズミによって、ラップフィルムが損傷され、容易に変敗してしまう。そこで飼料イネロールベールを安定的に貯蔵するため、殺鼠剤などの毒性物質に頼ることなく、低コストでネズミ害を軽減する技術を開発する。

成果の内容

- ①飼料イネロールベールを密集させて堆積するのではなく、ネズミの隠れ場所を作らないように間隔を空けて配置する（広々配置、写真1）。こうすることにより、ネズミは捕食者（イタチ、猛禽類、ヘビ、猫等）に対する警戒感を高めるため、被害を軽減できる（図1）。
- ②広々配置のロールベール間隔は50cm（小型のミニロールは30cm）以上とし、見通しを確保する。この間隔を空けると、作業時間と設置面積が大幅に増加（面積は1m径ロールで1.5倍以上、ミニロールでは2.5倍以上）するが、人がロールベール間を見回ることができ、フィルム破損等への対応も行いやすい。
- ③野ネズミ類が生息する未舗装地に長期間貯蔵する場合、広々配置のみでは、特に冬季間に底部から被害を受ける。この場合、網目1cm程度の金網を下に敷いて貯蔵すれば、被害を軽減できる。



写真1 広々配置(上)と二段積みの広々配置(下)
二段積みで配列する場合、4列以上の効果は未確認。

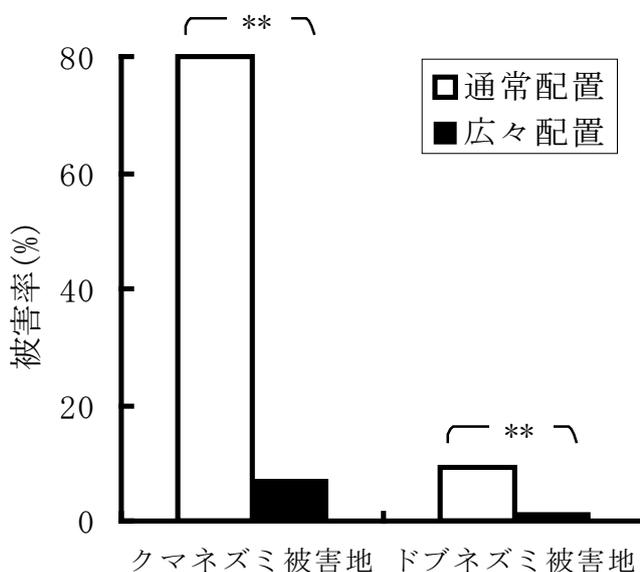


図1 広々配置のネズミ害軽減効果

ロールベールを通常配置と広々配置に分けて貯蔵し、ラップフィルムが一部でも破損を受けたロールベールの割合(被害率)を比較。**:有意差有り(P < 0.01)。

成果の利活用

- ①飼料イネロールベールの貯蔵場所を分散させるなど、貯蔵スペースが十分に確保できる条件において、ネズミ害による損耗率低下が期待できる。

